



伝統構法が紡ぐ木と人間の生活



工舎 澄み処

山口長士郎 氏 (沼田支部所属)

Q & A

▼会社概要&自己紹介

当社は自然に囲まれたみなかみ町で、新築住宅や店舗・オフィスの設計製作、リフォームや古民家のリノベーション、依頼があれば家具の製作も行う建設業です。昭和六十一年、代表が奥利根ヒバに惚れ込みこの地で創業して以来、一貫して県産材にこだわり「住む人の心が澄んで、落ち着く家」をつくり続けています。

私は、そんな代表である父と母、たくさんの動物と腕の良い職人さん達に囲まれて育ちました。一度は就職し外に出ましたが「一緒に働きたい」という思



いが拭い切れず、平成二十七年に家業に入りました。

▼奥利根ヒバとは

文字通り奥利根の山中で育ったヒバです。傾斜がきつくと、強風や豪雪に耐え、一〇〇年以上の年月を掛けて立派な木となります。木の強さや、抗菌作用などメリットが多数存在します。

伐採すると、過酷な環境に耐えるための力が開放され、ねじれや曲りといったクセとなつて表れます。そんな木ごとに違うクセを読み、木に従いながら家を建てる事は、職人さんに受け継がれた日本の伝統文化だと思います。

▼イチオシは

当社の強みは、「渡り罫(あこ)構法」という、クギや金物を使わずに木組みで作る上げる伝統構法での家づくりです。耐震強度問題が取り上げられた頃は伝統構法も叩かれることがありましたが、実大実験を重ね、強度を数値化し裏付けされたこの構法は、木材の特性を生かす合理的な手法です。とはいうものの、これを可能にしているのは、協力してくれる一流の職人さん達の存在です。



▼最近手掛けた家は?

新聞などでも取り上げられましたが、グリーンリーフ様の敷地内に建てられた託児所は当社で施工させて頂きました。

建物全体はもちろん、特徴的な八角形の天井まで木と木を組み上げてつくっています。外から見た印象的な外観と、託児所内から見上げた天井の梁の数や随所に見られる木組みの複雑な構法は、託児所でありながら「伝統型建築物」でもあります。

使われている木材にも特徴があり、床材として使用した奥利根ヒバは、抗菌作用などの特性を知っていた澤浦社長のリクエスドでもありました。そんな床や柱、手作りの机やイスなどに、子供達の成長の記録が刻ま

れていくことで建物も一緒に成長し、子供達と同様に愛され続ける託児所になることを願っています。

▼今後の課題や展望は

当社は、木材(素材)選びから製材、加工、建て方と全てが職人の手作業です。年間に建てられる棟数も限られます。経営という観点では、棟数を増やす事や原価を下げるなど、経営体質の改善が必要なのも事実です。

「伝統を守り、木に従う建築を行いながらも、現代のニーズに合わせる」非常に頭を悩ませる問題です。さらに代表が惚れ込んだ奥利根ヒバは、その森自体が保護林となり、手に入れることも叶わない現状です。

今後は国産材全体に目を向け、これまでの信念に新しい技術や視点を取り込み、継承することが私の使命だと思います。同友会で、異業種の皆さまのお知恵を借りながら「住む人が澄む家」をつくり続けていきます。

所在地/利根郡みなかみ町鹿野沢397
 連絡先/TEL0278-72-6977
 URL/http://www.f-a-n.work/
 メールアドレス/kousya_sumika@yahoo.co.jp